

＝ エピローグ～私は元気です ＝

幾多の悩みと困難を乗り越えて、なんとかみんなの力合わせで村田きょうこ参議院議員が誕生した。その胸に光る議員バッジのお披露目も含めた加盟組合や県本部の定期大会、四囲の情勢や感染状況等を見極めながら対面で開催した組織も多い。

今回は、その大会でのドラマ仕立てのようなお話を少し。「へ～」、程度の感覚でご一読願えればありがたい。

10月14日、福岡県本部大会での出来事。17時からの開会、私は17時20分頃の挨拶予定、続けて村田参議院議員の挨拶と思っていたが、臨時国会の開催中ということから彼女は遅れて現地入り。大会途中の18時頃に到着し、それから挨拶ということで久方ぶりの同席はかなわず。

だが、夜に三役の皆さんとの懇談ありということで、それを楽しみに私は一旦ホテルにて待機。大会が終了次第、村田参議院議員と一緒に懇談会場に移動するとの指示。待機するホテルに村田参議院議員が到着したら増田（県本部）委員長より電話をもらうことに。時間のある私はホテル到着後、チェックインを済ませ小倉駅周りを散策。もちろん携帯は手に持って。だが、19時近くになっても電話は鳴らず。

さて、その20分程前にさかのぼる。増田委員長と村田参議院議員がホテルに到着、増田委員長は私に何度も電話をしたが応答なし。ショートメールを送るも返事なし。方や、きょんきょん（議員の立場を離れた場合は以降、この呼び方で）も私に電話をしようかと思っただけなのだが、県本部委員長の電話に出ず、自分がして出たならば…と、考え巡らせ電話せず。

何度しても反応がないことから、ホテルフロントの方に私の部屋に電話をしてもらおうが応答なし。もしかししたら、散歩でもして疲れて寝ているかもとの判断で、部屋を確認させてもらうためにホテル担当者と部屋へ。

ところが、ここからの思い込みがきょんきょんの中でドラマを生んだらしい。実は彼女、東京からの移動時間に読んでいた小説、「サイクリングを終えた男性が汗を流すためにシャワーを浴び、湯船に浸かっているうち、そのまま帰らぬ人に…」というもの。もしや神田委員長も膝の手術も終わり、なんか嬉しくて、ホテルの周囲をウォーキングして、お風呂に入って…

部屋の前、ノックをしても応答なし。ホテルの担当者がのぞき窓から確認するも「電気はついていませんね」、と。鍵を開け中へ、「お風呂の電気はついてます。」えっ、お風呂の電気はついてる、きょんきょん震えが止まらず、やっぱり…、部屋の中も覗けぬ事態に。

しかも、今日の衣装はピンクのジャケット以外は、ブラウスも黒、スカートも黒、それに合わせてストッキングも黒。出てくるまえにご主人に、今日はそのまま国葬に行けるね、と茶化されて出てきただけに、嗚呼なんてことかと思われながら、目に涙。

ホテル担当者、「皆さんお待ちください、私が確認してきます。お風呂場に…も、いませんね。」、きょんきょん、指の震えを抑えながら、また涙。

そんな事とはつゆ知らぬ私、いつまでたってもならぬ電話にやきもきしながらホテルのロビーで待ちわびていると、「あっ、神田委員長一。良かった～、生きてる。」と、きょんきょんと増田委員長が近づいてくる。増田委員長が鳴らした電話は業務用で部屋の中。私が持ち歩いていたものはきょんきょんが鳴らそうとした個人電話…。

すべての成り行きを聞いてびっくり。でも、ありがとうねお二人さん、心配してくれて。きょんきょんの想像力の豊かさと優しさに、あらためて笑いと感謝です。大丈夫、私は元気、生きてます… チャン・チャン。ってことに相成りました。

そんな笑い話で終わればいいが、10月に入って死亡災害が続発している。勤務の1日をドラマに例えるなら、最後は元気に笑顔で帰宅する姿を私たちはつくり続けていかなければならない。

年末まであと2か月、もう誰一人の命も失ってはならない。

ご安全に

2022年11月1日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一